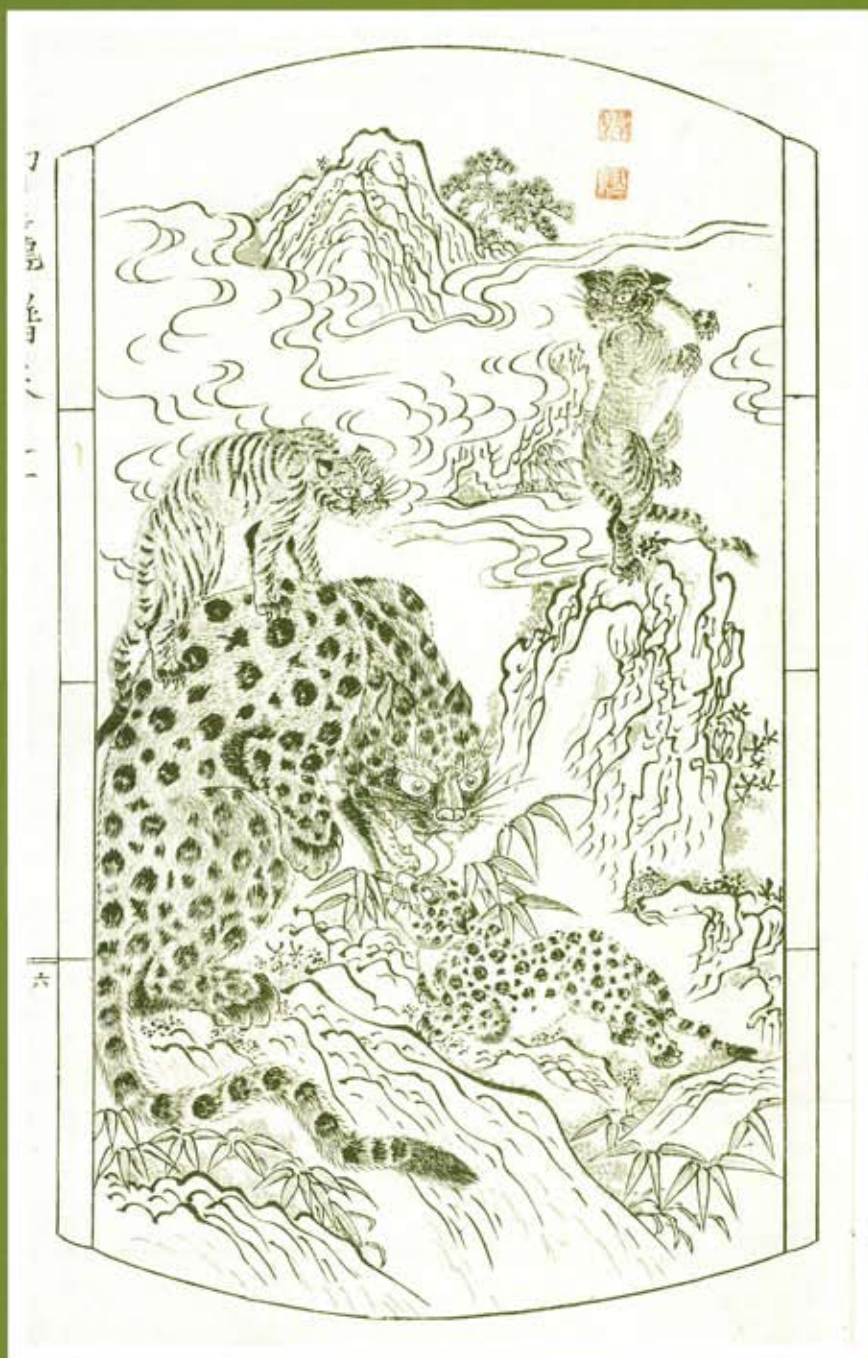


杜乃杵

秩父神社社報
杵乃杜(ははそのもり)

第 40 号

平成21年12月3日
(大 祭)



天皇陛下御即位二十年奉祝記念

秩父宮勢津子妃殿下を偲び奉る

今年、秩父びと挙って、今も敬愛の真心篤き、秩父宮妃殿下

勢津子さまご生誕百年の、記念すべき年に当たります。

時あたかも今上陛下には、畏くも即位二十年を迎え給い、国民挙って、ご即位大礼当日に当たる十一月十二日を盛大に奉祝申し上げたところです。

勢津子さまは、明治四十二年、西暦では一九〇九年の九月九日午前九時に

英国はロンドン郊外で、お健やかにご生誕なされました。

めでたい九の数字を重ねた、しかも重陽の節句の祝日にお生まれということで、お喜びひとしおのご両親は「節子」と命名され、菊花を紋どころとされた由、早くも秩父宮妃と、ご皇族に連なり給う行く末を、定めとされた如きです。

昭和三年に直宮の秩父宮雍仁親王の宮妃となられ、御名を「勢津子」妃殿下と

名乗られてからは「鴛鴦」もかくばかりにお仲睦まじく、昭和の激動の世相を

共に凌がれ給い、親王ご薨去の悲運にも耐えて皇族の勤めを十二分に果たされた、そのご生涯は、全国民の記憶に今も等しく鮮やかなものがあります。

宮家ゆかりの当地、秩父の郡市民は、雍仁親王はもとよりのこと、勢津子妃殿下の

ご慈愛に深く浴して、枚挙に叶わぬご恩徳を拝受して参りました。

なかでも弊社、妃殿下のご英断により、昭和二十八年に神遊り坐した

親王殿下の畏き神霊の奉祭が許されて以来、幾度となくご参拝の榮に浴しました。

「神垣も新たに、なりて、みゆかりの秩父の里わ、いよ榮えむ」

台風被災後のご社殿復興成った昭和四十七年九月に、御心をこの御歌に寄せ給い、同五十四年に神殿近く築いた御歌碑をご覧頂いたことも、ついぞ昨日の慶びかのようにです。

解説 秩父神社 (39)

権補宜 甲田豊治

◆「虎」と「妙見」

来る平成二十二年は、庚寅歳である。当社と「虎」との関わりは、徳川家康公との繋がりととも言える。家康公は「壬寅の年、寅の日、寅の刻」生まれ、関東入国も庚寅年であった。社報第20号、昭和の社殿大改修を務めた宮大工坂本才一郎先生の解説によれば、家康公再建による当社妙見宮時代、公のために「秘法・寅の儀法」と称し、年頭の寅の日、寅の



御神馬奉納ノ儀 寅ノ門より参進

刻に大林山廣見寺の山主が社殿東側の寅ノ門より昇殿し、延命長寿の祈願を厳修し、祈願札を江戸城に献上したとしている。さらに、その当日の神饌に使用する水と山主の清めの水は妙見の七つ井戸の水を使用したと伝えている。

この「寅の日」と「妙見の七つ井戸」に関して、何か意図するところがあるものかと考えてみる。暦の中段に「十二直」というものがある。この十二直、詳しい解説は省くが、実は、北斗七星の柄杓の方向からきたもので、正月節・寅の日の夕刻、北斗の破軍星斗柄が寅の方角を向くことから新年初の寅の日に、この「妙見・秘法」を修したものでないかと考える。更には、当社からみて、この七つ井戸は丁度寅の方角に存在しており、妙見と寅との不思議な繋がりをみることが出来る。

さて、現在当社で「虎」と言うとき、誰もが名工左甚五郎作「子宝・子育ての虎」の彫刻を連想するのではないかと思う。この彫刻に関連し、大変興味深い版画にめぐり合ったので紹介したい。この度の表紙に掲載した秩父・荒川出身で幕末から明治にかけて活躍した彫刻師森玄黄斎の「印籠譜 坤」に収められている親子の虎の図である。この親子の構図は、驚くほど当社の「子宝・子育ての虎」によく似



森家に伝わる玄黄斎の掛け軸

ているのである。しかし、大きく相違するところが一点、親虎の右下に位置している子虎の柄が彪柄なのである。この親虎と子虎三匹については、「虎の子渡し」と言い、京都の龍安寺や南禅寺に代表される枯山水の石庭の名称でもよく知られており、中国の故事から伝わったものであるという。

南宋代の周密（一四三〇～一五一一）の『癸辛雜識』巻下によると、「諺に、『虎三子を生まば、必ず一彪有り』という。彪はきわめて猛で、虎の子を食うことができる。虎が三子とともに川を渡るとき、虎（親）がさきに渡れば子が彪に食われてしまうので、まず、彪を背負って対岸に渡り、ついで一子を背負って対岸に渡り、彪を背負って戻り、その彪を置き、他の一子を背負って対岸に渡り、最後に彪を背負って対岸に渡るといふ話を

狐師から聞いたことがある。おそらく、子を守ることに、きわめて意を注ぐのは、子を食われるのではないかと案ずるからであろう。」とある。（中国神話・伝説大辞典より）

この「虎の子渡し」を画いた森玄黄斎は、嘉永元年（一八四八）に妙見社蘭田筑前に伴われ伊勢神宮を参詣した記録がみえ、当社との深い繋がりと理解する。もしかすると、その当時は印籠譜に描かれていた様に、社殿の彫刻も子虎が一匹彪であったと想像してみるとなかなか興味深い資料であると言える。

何れにせよ、「子宝・子育ての虎」「虎の子渡し」は子を思う親の心に変わりはなく、又「命」を司る妙見の御神徳と重なって、親子の「命の絆」の大切さを古から現在、そしてこれからの未来へと伝えていくのである。

神道国際学会創立十五周年記念シンポジウム開催に寄せて
「鎮守の森を世界へ：森と水—いのちの神々」

神道国際学会会長
 秩父神社宮司 蘭 田 稔

序 本学会の記念行事

私どもが結成して十五年を迎えるNPO法人「神道国際学会」は、日本古来の神道文化をめぐって学際的にも国際的にも広い視野でその歴史的、現象的な実像に迫ることを目指して研究交流を實踐している学術団体ですが、あわせて現存する神道文化が現代世界に活かされる時代的意義をも多角的に検証する目的も持ち合わせており、今回の公開シンポジウムで環境問題を採りあげたのも、その理由あつてのことでした。

○ 秩父神社を会場に

諸般の事情で、今回の記念すべき本学会の催しは当社の参集殿を会場に開催することになり、国内外の会員ばかりでなく、協賛を賜ったNPO法人「社叢学会」、財団法人「オイスカ・インターナショナル」、埼玉県神社庁の各関係者をはじめ、地元の有志など多くの多彩な人びとの参加を得て、終了後の蘭田真木子のソプラノ、谷有希子さんのピアノによるコンサートと祝賀レセプションなど、お蔭さまで賑やかに開催することができました。

○ 秩父市長のご挨拶

開会に当たっては、本学会の地元・開催ということでは、秩父市長・久喜邦康氏を迎え、ご挨拶を賜わり



ました。市長は、歓迎のお言葉に加えて「秩父は周りが森林であり、この広大なフォレストを維持して二酸化炭素を吸収し、森林に醸成された水を下流に流すことは当市にとって大きな仕事だ。また来年は『秩父祭』がユネスコの世界無形文化遺産に登録予定になっている」と述べられ、秩父の環境と祭礼を内外に発信する意向を力強く表明して頂いたことは、まことに本学会の公開シンポジウムの趣旨にふさわしく有難いご挨拶でした。

○ 豊かな風土の宗教文化

さて冒頭の発題を承った私は、できるだけ具体的な事例に絞って、まず映像で紹介した霊峰白山をめぐる山麓一帯の壮大な凸型のコスモロジー(宗教的風土)を紹介し、つぎに大和(奈良)盆地の古典的な凹型のコスモロジーを紹介して、共に読み解くことのできる山水や森の風土に根ざす神仏の世界が、他ならぬイノチ共生のシンボリズム(社寺構成)とパフォーマンス(祭礼と修行)とを構築する神話の「まほろば」の世界であることを紹介し、後半で、当地の秩父盆地をも同様の視点で紹介しながら、来年度の世界無形文化遺産の候補となった「秩父祭」が抱える地元の環境課題として武甲山の修景問題を指摘しました。

○ GNPからGNHへ

なお最後に、こうした構想の根拠に、最近のいわゆる「持続的開発」理念の注目すべき発想転換としてのGNH(国民総幸福度)の考え方があることを紹介したのである。それは、現在の先進諸国を中心に経済的繁栄の指標としているGNP(国民総生産量)に対する根本的な発想の転換というものです。「GNPの追求が繁栄の目標とされてきたが、果たして国民はそれで幸せになる

のか」という疑問から、一九七〇年代に小国ブータンが提唱し始め理論化も進むなかで、ハビネス(H)の四条件として①豊かな自然環境、②豊かな伝統文化、③良い政治の働き、④公正な経済発展、が挙げられているのです。そしてこれらの四条件は、まさしく私が提唱するところの、住民が心豊かな生活を実感できる風土と一体の地域づくりの指針になると思います、敢えて付言した次第です。

○ 畠山重篤氏と中野良子氏の提言

二番目の発題をして下さった畠山氏は、岩手県の気仙沼から遠路参加していただき「牡蠣の森」それは室根神社からはじまった」というテーマで、示唆に富んだ熱弁を奮ってくれました。氏は、地元で大きな牡蠣の養殖業を営むなかで「磯焼け」という魚介類消滅の危機を救うべく河川の上流を緑化する事業を成功させ、その成果が小学校の教科書に載るなど近年は幅広く緑化運動の啓発に活躍して居られます。「森は海の恋人」という魅力的な呼びかけをしなが、全国から植林に参加する人びとに対し、「皆さんが山を緑にしてくれたお陰で下流の海に海藻の森の緑がよみがえったが、一番大切なことは皆さんの心の中に緑が育つことだ」と話したことを紹介し、気仙沼に流れ込む大川の水源地に鎮座する室根神社の祭礼には昔から漁民たちが海水を供え塩で御神体を清める神役があることから「昔の人は森と海をつなげて」下流と上流の感謝しあう関係があったのを取り戻し、上流の山々を緑化すれば日本中の海底も緑化して温暖化の大きな解決になるとのことでした。

最後の発題には、オイスカという国際的な緑化事業と現地の青



【表紙解説】

今回の表紙版画は、神社解説でも紹介した秩父・荒川白久生まれの彫刻師森玄黄斎の作品「印籠譜 坤」に収められている親子の虎の図を掲載させて頂きました。当社の「子宝・子育ての虎」の構図に大変よく似ており、また、同「印籠譜」には三峯神社の御眷属であるオオカミも収められており信仰心の厚い作者であることが窺えます。

今回の表紙版画掲載にあたっては、小鹿野町の森家に代々伝わる貴重な「印籠譜」を、秩父歌舞伎正和会会長である森真太郎様よりお貸し頂き撮影をさせて頂きました。また、荒川白久の山中正章様より玄黄斎の顔写真を提供頂きました。この紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

文化4年(一八〇七) 山中太吉、りまの次男として生まれ、庄吉と命名。

文化14年(一八一七) 彫刻に異常な関心を持ち、将棋の駒などを彫刻。

文政12年(一八二九) 忍藩主松平公に印籠を献上。

天保2年(一八三二) 小鹿野・泉田の森家へ婿養子。

「8年(一八三七) 印籠譜」二巻を版刻。

弘化2年(一八四二) 長男 虎三郎が誕生。

嘉永元年(一八四八) 妙見社園田筑前に伴われ伊勢参宮。

安政5年(一八五三) 白久伊勢山の再営図を。

慶応2年(一八六六) 白久伊勢山皇大神を造営。

明治19年(一八八六) 玄黄斎没す(享年80歳)。

昭和36年(一九六一) 森玄黄斎の墓が県指定旧跡に指定。

昭和37年(一九六二) 彫刻・絵画が小鹿野町・荒川村(現秩父市)の文化財に指定。



少年教育に大変な実績を重ねておられ、国連環境計画にNGO(非政府活動団体)の代表格に認められているほどの国際団体の総裁をお勤めの中野良子氏が「ふるさと作り」土に根ざした援助活動を」と題し、海外の活動を映像で紹介しつつ「土とはふるさと」であり、日本の伝統文化である「うぶすな(産土)」と「むすび(産霊)」という理念がポイントになると話を結ばれました。

氏子青年会創立二十周年を迎える

二十周年実行委員長 原嶋 清



秩父神社氏子青年会は平成二年四月十五日、蘭田宮司様を中心として、各町会から十二名の有志が集まり、秩父神社を中心とした文化的なマチ造りを推進する志の下に、全国氏子青年協議会綱領の精神に基づき、清く・明るく・美しい社会の建設に努め、地域の繁栄と調和に寄与する事を目的に総勢四十三名の会員で発足しました。

この間、全国氏子青年協議会定期大会に参加、夏冬の各種勉強会、武甲山登山、大嘗祭時の秩父神社夜間警備、観月コンサート、各地方の祭り視察、秩父神社諸行事の助勤、親睦会、交通安全教室、柞の杜フェスティバル、秩父一中・二中の多くの生徒に参加を頂いた境内清掃等々幾多の事業を展開して参りました。



これら諸活動が認められ、全国氏子青年協議会より歴代会長が功労表彰を受け、更に第四十六回全国氏子青年協議会定期大会（東京大会）に於いて「最優秀氏子青年会」を受賞いたしました。このような経緯を経て本年めでたく創立二十周年を迎えました。

去る十月四日には、参集殿神の間に於きまして、埼玉県神社氏子総代連合会長 井上 久様をはじめ数多くのご来賓の皆様、秩父神社蘭田宮司様ご列席のもと、神社職員、協力会、氏子青年会歴代会長、会員総勢一六〇余名の参加により、当氏子青年会創立二十周年記念式典が盛況に執り行われました。式典ではこの十年間にご尽力頂いた特別功労者五名、功労者十四名に表彰状と記念品、二団体と四名の方々に感謝状と記念品がそれぞれ贈呈されました。式典後平成殿ロビーに於いて「記念植樹」また清興として蘭田真木子さんによる「柞の杜コンサート」を開催致しました。

その後公務でお忙しい中、秩父市長久喜邦康様にも駆け付けて頂き祝賀会が盛大に執り行われました。



二十周年記念事業部長 木村 善明

平成二十年十一月より創立二十周年実行委員会を立ち上げ、原嶋実行委員長を中心に「式典・祝賀会部会」「記念事業部会」「記念誌部会」「記念品部会」「総務部会」の組織編制に着手し、五役及び常任幹事他若手の方々を中心に活動がスタート致しました。

実行委員会発足当時は、不安の中スタート致しましたが、月一回の実行委員会開催を基本に、全体・部会単位での活動を精力的に実施することで、各部会間の相互協力、及び全員のコミュニケーションが回を増すごとに充実して行き、二十周年記念事業に向けた大変素晴らしい活動となりました。

◆ 式典・祝賀会部会
記念式典及び祝賀会の開催に向けた取り組み

◆ 記念誌部会
二十周年記念誌作成への取り組み

◆ 記念品部会
「特製タイタック」「ストラップ」作製への取り組み

◆ 総務部会
予算調整、全体のサポート

十月四日、記念式典では多数のご列席及びご来賓の方々よりご祝辞を賜り盛大に行われました事を心より喜び申し上げます。また式典終了後、平成殿ロビーで記念事業として「枝垂桜」の植樹セレモニーを行い、引き続き「蘭田真木子 柞の杜コンサート」を開催し、参加頂いた方々の心に残る記念コンサートが行われました。祝賀会も盛況に進みこの二十周年記念事業が実行委員会及び参加者の良い思い出となったことと思えます。

また、氏子青年会活動へのご理解とご協力に感謝し、記念誌及び記念品を当氏子青年会員に配布させて頂きました。

二十年の歩みを会員皆様方と共に有ることで、更なる会員相互の絆を深め、秩父のマチ造りに貢献して行きたいと思えます。



◆御即位二十年をお祝いする
「国民祭典」に参加

今上陛下の御即位二十年を奉祝する集いが去る十一月十二日執り行われ当社からは宮司以下榑宜・氏子青年会会長ほか役員七名が参加した。

御即位二十年奉祝委員会主催による「国民祭典」はまず内堀通りを中心に、全国各地の郷土芸能を交えた祝賀パレードや神輿・山車などの奉祝渡御が練り歩き祝賀ムードを盛り上げた。第二部の祝賀式典は午後五時から皇居前広場において約三万五千人が参加、特設ステージに政財界及び芸能界・スポーツ界などの著名人が次々とお祝いのメッセージを述べた。前日から激しい雨は上がったものの冷たい風が吹き、気温は十二度前後と冷え込む中、祝賀来場者は一体となり広場は奉祝の熱気に包まれた。午後六時半過ぎ参加者一同日の丸の小旗を振り提燈の明かりで両陛下をお迎えした。

「皆さんには寒くはなかったでしょ

うか」と陛下の労いのお言葉、思し召しをいたいただき、感激の思いを抱きつつ解散となった。

◆宮司、田んぼ国際会議に参加

蘭田宮司は、去る十月三十一日と十一月一日の二日間、山梨県の八ヶ岳南麓に広がる清里高原にある清泉寮（キープ協会）を会場に開催された「第3回田んぼ国際環境教育会議」に招かれて水田稲作の大切さを多角的に論議する機会に参加した。日本の環境教育学会が主催しての国際会議だが、今回は東アジアで今も水稲農業を基盤にする諸国、タイ、中国雲南地方、インドネシア、フィリピンなどの専門家が招かれて、田んぼをめぐる環境教育の取組みを論じ合い、国内の各種環境団体や環境保全に参加する企業法人など多彩な参加者の討議で、最後にデモンマークで今月に開催されるCOP15（第15回国連気候変動枠組条約締結国会議）などに提言すべく「田んぼ



宣言」をまとめて閉会した。

なお宮司は、稲作文化を論じ合うB分科会で国大の茂木栄先生と共に、各地の田植え神事など神社界が抱えて立つ稲の祭がいかに大切な日本文化であるかを紹介し、タイや雲南地方でも稲作神事が健在なことを確認できたという。また神社本廳の教化部と昭和聖徳記念財団からも参加を得て、実践中の「たんぼ学校」などの紹介もなされたとのことである。

因みに、蘭田宮司は宗教者平和会議の派遣でCOP15に向け海外出張の予定である。

梟だより



◆秩父神社妙見講

自 平成二十一年 九月
至 平成二十一年十一月

- 九月 五日 中村講
高橋信一郎講元外三百十三名
九月 六日 小鹿野講
小菅健夫講元外二百二十六名
九月 十二日 荒川妙見講
浅海 忠講元外七十六名
九月 十三日 上町講
平塚功一講元外二百九名
十月 三日 上宮地講
今井奎吾講元外百九十二名
十月 十八日 東町妙見講
三友直彦講元外百十三名

十一月 十日 番場講

宮野前方也講元外百五名
十一月 十三日 野坂講
新井永保講元外二百名

本年より、上町講 平塚功一様が新たに講元に就任され、また、小鹿野講 小菅健夫様から松本守様に十一月一日付けで新たな講元に就任されましたのでご報告致します。これから、どうぞ宜しくお願い致します。

◆柞乃杜神前結婚式報告

- 東京都練馬区 玉柳 卓也・貴美様
秩父市上宮地町 坂本 智明・美奈様
小川町中川 長谷河昭夫・麻由美様
秩父市上町 福嶋 大祐・典子様
秩父市宮側町 浅賀 康祐・清美様
秩父市荒川 新井 豪・彩美様
秩父市荒川 田端 義郎・瞳様
秩父市柳町 赤岩 卓・由希子様
秩父市阿保町 新井 亮司・恵様
本庄市北堀 齋藤 一広・君枝様
上尾市平方 関根 宏・恵子様
秩父市中村町 小川倫史・麻理子様
秩父市荒川上田野 黒澤紀夫・由美佳様
秩父市荒川日野 浅海修一・美奈子様
静岡県御殿場市 根岸 宏幸・聡美様
秩父市寺尾 富田 幸男・絵美様
東京都国分寺市 小嶋 浩・佳澄様
小鹿野町下小鹿野 西 勇・麻里子様
末永く幸せなご家庭をお築き頂きますようお祈り致します。

「鎮宅靈符」掛け軸と「妙見宮」手習い

権瀬宜 甲田豊治

今回の彫刻師森玄黄斎の取材で、思いがけなく大変貴重な資料に廻りあった。玄黄斎の生家秩父市荒川白久の山中家に伝わる「太上神仙鎮宅靈符」の掛け軸と「妙見宮」と書かれた手習いの和紙である。

当社に伝わる鎮宅靈符の版木とまきに同一のものであり、靈符の北斗七星に輔星が確認された事や、また上部には写真に見られた三十二の文字が刻まれている。靈符の版が出来た当初の状態で刷られたものとみられ、当時の状況を知る大変重要な資料の発見に、私自身少し興奮した次第である。

更に、当社額殿に掲げられる「妙見宮」の扁額の文字と玄黄斎の「妙見宮」と書かれた手習いの筆跡に共通性がみられることから、当社に伝わるこの靈符の版木と妙見宮の扁額は森玄黄斎が制作した作品ではないかと推察するのである。

以上のように、様々な仮定のもとに、この度の「虎」・「妙見（北斗）」・「森玄黄斎」・「鎮宅靈符」というそれぞれ



山中家に伝わる鎮宅靈符掛け軸

山の中家に伝わる鎮宅靈符掛け軸と「妙見宮」手習い。この度は、森玄黄斎の生家秩父市荒川白久の山中家に伝わる「太上神仙鎮宅靈符」の掛け軸と「妙見宮」と書かれた手習いの和紙である。

のキーワード「妙見宮」を通過して一つの線となつて浮かび上がつて来た訳である。



玄黄斎「妙見宮」手習い

このきつかけとなつたのが丁度一年前の社報38号の解説で「妙見お姿の版木」の詳細を、宮大工坂本才一郎先生に取材した際、先生が突然二階の書庫から玄黄斎の「印籠譜」を探しだし、私に見せてくれた事が今回の全ての邂逅の始まりであった。

今思えば、あの時先生は、印籠譜を見ながら嬉しそうに「虎の子渡し」や玄黄斎の事を語ってくれた。「この虎の図には、妙見と結び付く手懸かりがあるかもしれないよ。この事を調べてみてはどうですか？」と頼みかけられていた様な気がする。

先生におかれては、今年九月急に体調を崩し他界されてしまった。その真相を今となつては確かめることは出来ないが、「虎」と「妙見」にまつわるこの度の私なりの解説をここに掲載し、今は亡き坂本才一郎先生に感謝を申し上げたいと思うのである。

表札祈願

貴家「表札」甦る――



当社で結婚式をあげられた方々に、予てより御神木で作った表札をお祝いの記念品としてお渡ししております。

三十年ほど玄関先に掲げてきた表札の名前が読めなくなつたとお嘆きの皆様、銀婚式を控えた方、記念日に何かをとお考えの方々、今一度表札を見直してみても如何でしょうか。当社ではご依頼により削り直し、焼印・揮毫の後御神前にてお祓いを致します。新たな気持ちで御神徳をいただき、家内安全の御祈願をお勧めいたします。

吉兆護符初夢宝船



一月二日の晩に、このお札を枕の下に忍ばせて、当社社彫刻でも知られる宝船の帆にのりした「護符」に悪夢を食べてもらい、すばらしい夢だけをご覧になり、平成二十二年も実り多き年になりますことをお祈り申し上げます。



遠宮で結ぶ人の輪心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

編集後記

■ここに社報柞乃杜第40号御即位二十二年奉祝記念号をお届け致します。

■この度の解説では不思議な巡り合わせで、「虎」・「森玄黄斎」に関する記事掲載致しました。実は玄黄斎は文化四年一月生まれで限りなく寅年に近い卯年生まれ。また玄黄斎の長男も天保十三年の寅年生まれでありました。

また不思議なことは重なり、丁度十年前の平成11年、第20号奉祝十年記念号では、神社解説で故坂本才一郎先生による「虎儀法」が掲載されており、そして更に坂本先生自身も大正三年の寅年生まれなのであります。

この恐ろしい程の「トラ」との繋がり、もしかしたら「家康公」以来受け継がれているものなのかもしれません。

■今回の森玄黄斎の取材にあたり、小鹿野町下小鹿野の森真太郎様、秩父市荒川白久の山中正章様、秩父市立荒川歴史民俗資料館館長の中紀雄様には貴重な資料を提供頂きまして、厚く御礼申し上げます。有難う御座いました。



※本報の用紙は再生マツト紙を使用しています

平成二十一年(二〇〇九)十二月三日
編集 秩父神社社務所
発行 秩父神社社務所
〒366-0004 埼玉県秩父市番町一三
TEL 〇四九四 二二一〇二六二
FAX 〇四九四 二四一五五九六
印刷所 有限会社 振文社印刷所
〒366-0004 秩父市東町二七七八